



みんなでなろう 地域の先生

奴奈川版



社団法人 奴奈川青年会議所

みんなでなろう地域の先生 奴奈川版

発行日
2001年12月15日

監修
糸魚川市
生涯学習推進委員
社会教育委員 松田 鐵夫

編集責任者
社団法人 奴奈川青年会議所
豊かな心創造室
副理事長 小田島修平

地域の先生づくり推進委員会
委員長 林 善彦
副委員長 青木 玄成
委員 藤井 元
" 小池 健一
" 近藤 嘉宏
" 猪又 健
" 野本 英男
" 木村 正人

発行責任者
2001年度 社団法人 奴奈川青年会議所
理事長 広瀬 正樹

発行所
社団法人 奴奈川青年会議所
〒941-8601
新潟県糸魚川市寺町2丁目8番16号
TEL (0255) 52-9343

印刷所
糸魚川総合印刷株式会社
〒941-0061
新潟県糸魚川市大町2-5-1
TEL (0255) 52-2031

はじめに

私が子どもだった頃、近所の子ども達と自然に年上の子どもの家へ集まり、彼を中心に神社の境内や海岸の砂浜で、野球や缶蹴りなどをして、暗くなるまでよく遊んだものでした。今思えば、それらの体験を通して体力、忍耐力、創造力、社会性などが育まれたのだと思います。また、毎年地区の様々な行事で、大人と子どもの交流があり、そこで大人達に色々なことを教えてもらったりした楽しい思い出があります。

当時は、娯楽施設や遊び道具も今よりも少なかったのですが、それでも素朴な遊びで十分楽しめました。そして、大人達も子ども達と遊ぶことを楽しんでいたように思います。

しかし、現在は、学年の異なる子ども達が集まって遊ぶという姿を見られなくなりましたし、地区行事を行う場合でも、その行事の必要性が議論されることさえもあります。子どもの健全な成長には色々な経験をさせる必要があり、また、そうすることが地域の大人達の責任でもあると思います。

このガイドブックは、地域の大人が子ども達と関わり、私達大人自身も子ども達といっしょに「心」を成長していく大切さを理解し、行動を始めていただける事を願って発刊しました。

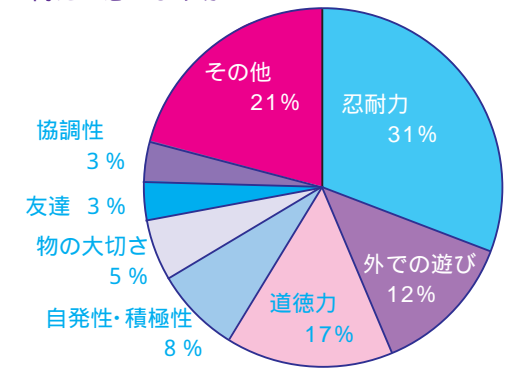
1. 導入編 今、私達大人にできること！

今の子ども達

昔の子ども達に比べ、今の子ども達に変化が現れてきていると感じる事はありませんか？

右のグラフでもわかるように、親達は子ども達に何が足りないと感じています。

お子様または今の子どもに足りないものは何だと思えますか？



2000年度 社団法人 奴奈川青年会議所 青少年育成委員会 「心みつめる事業」に関するアンケート調査結果 抜粋

親の役割

親が子どもに何か足りないものが在ると感じている原因には、親にも責任があるのではないのでしょうか？

子ども達は、いろいろな情報・体験を得て、その中から自分で役に立つものを学んで取り入れながら育っていきます。そういう機会を、子ども達から私達親が奪っているのではないのでしょうか？

転ばぬ先の杖だけが愛情ではありません。子ども達には、おおいに失敗をさせ、色々な体験をさせてあげましょう。

共に育み、共に育つ

現在の親や地域の大人は、子どもの教育・道徳心の育成などを学校任せにしている傾向があると思いますが、その学校において平成14年度から完全週5日制が始まります。

学校教育が大きく変わろうとしている現代、私達、親、大人が進んで子ども達とかかわり合いを持つという意識が必要になってくるでしょう。

少子化、核家族化している家庭環境で不足がちなコミュニケーションやふれあい・経験を地域の大人達がサポートしていくことなどがますます大切となっていると考えられます。

家庭や学校だけに教育を任せるとは、地域全体で子ども達を「共育」して行く姿勢が必要なのではないのでしょうか？

共育とは、私達大人も子ども達と共に育つことを言います。私達大人が子ども達を夢と希望にあふれ、真に「豊かな心」を持つ人間となるように育んでいくことで、私達大人も共に「豊かな心」を育てていくことなのではないのでしょうか！



地域の先生づくり運動

私達は、多種多様なライフスタイルで生活しており、価値観もそれぞれ違います。子ども達が多様な価値観に接し、様々な事を体験して育つために、親として、地域の大人として、学校・PTA・公民館・各種団体とかかわりを持ち、地域の子どもの対して関心を示すことが重要です。

一人ひとりで出来る事から始めましょう。その中からまた新たな活動を行っていけば、活動の輪が広がります。これが「地域の先生づくり運動」です。

自分自身の意識改革から始めましょう.....！

Contents

はじめに Contents

1. 導入編

| | |
|---------------|-----|
| 今、私達大人にできること！ | 1 |
| 地域の先生 Q&A | 2～3 |

2. 実践編

| | |
|---------------|-----|
| あなたも地域の先生になろう | 4～5 |
|---------------|-----|

3. 知識編

| | |
|---------------|-----|
| 全国の学び舎の動き Q&A | 6～7 |
|---------------|-----|

4. 事例編

| | |
|----------------------|----------------------|
| 奴奈川地域での事例紹介 | 8～11 |
| 「ぐるっと大野」 | : 大野公民館 |
| 「みんなで大きな絵を描こう！」 | : 市振小学校PTA |
| 「地域子ども文化・スポーツクラブ」 | : 地域子ども文化・スポーツクラブ育成会 |
| 「少年少女OH! さかな教室」 | : 能生町漁業協同組合青年部 |
| 「ふれあいスクール in 根知」 | : 社団法人 奴奈川青年会議所 |
| 「糸魚川・西頸城FC」 | : 能生FC & 青海FC |
| 「おじいちゃん、おばあちゃんから学ぼう」 | : 中能生小学校 |
| 「田海ヶ池のトンボを守ろう」 | : 田沢小学校 |

5. 情報編

| | |
|--------------------------------|-------|
| パネルディスカッション | 12～14 |
| 地域の達人・先生・生涯学習の紹介 | 15 |
| 「これからの地域・家庭・学校」に関するアンケート結果のまとめ | 16～17 |
| インフォメーション(書籍、ホームページの紹介) | 18～19 |

| | |
|---------------|----|
| 参考文献、参考ホームページ | 20 |
|---------------|----|

| | |
|----------------|----|
| あとがき、EDOゲームの紹介 | 21 |
|----------------|----|

Q 私達が子どもだった頃と比べ、子ども達を取り巻く環境に変化はありますか？

A 子どもを取り巻く環境とそこに生ずる問題は、親の時代よりも、複雑化、深刻化しています。

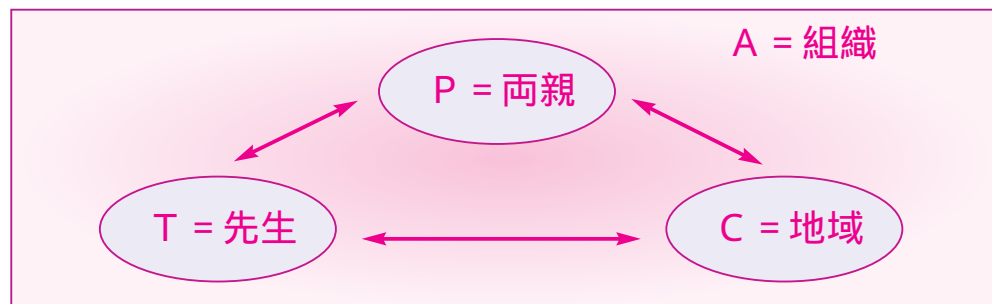


| 年 代 | 社 会 的 背 景 | 子どもを取り巻く環境・動き |
|--------|---|--|
| 1960年代 | <ul style="list-style-type: none"> ・国民所得の上昇 ・核家族化、少子化 ・耐久消費財の普及 ・生活水準の向上等 | <ul style="list-style-type: none"> ・群れ遊び、ガキ大将全盛 ・学習塾の始まり |
| 1990年代 | <ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲームの普及 ・IT技術の飛躍 ・夫婦共働きの増大 ・景気の低迷等 | <ul style="list-style-type: none"> ・凶悪犯罪の低年齢化 ・親が子どもに対しての虐待 ・いじめ・登校拒否・自殺の増加 |

Q 子どもに対する社会的な取り組みの変化はありますか？

A PTCA運動という行動を、社団法人 日本青年会議所（注1：次頁下）では提案しました。

PTCA運動



PTCA運動とは、PTAにC = 地域（コミュニティー）を加え、家庭・学校・地域社会が共同し、地域ぐるみで子ども達の教育に取り組み、地域教育を向上させようとする考えです。

Q なぜ地域（コミュニティ）が必要なのですか？

A 核家族化、少子化により親の価値観で育つ子どもが増えてきています。子どもは、いろいろな情報を得て、その中から、自分で好奇心・探究心を持って自分で選び、どんどん取り組んでいくという育ち方をしなくてはならないのです。それには、地域の大人たちが地域の先生として、地域の子も達とかかわっていくことが必要なのです。



Q 「地域の先生」とは何ですか？

A 昔から子どもが、生活に必要な事、知識・道徳など、様々なことを地域の大人から学びました。また、大人は自分の知っていることを、自分の子どもだけではなく、近所の子ども達にも、分け隔てなく教えてきた時代があります。

これが「地域の先生」ではないでしょうか。

また、子ども達が、まわりの大人から様々な情報を得、経験しながら成長していく“場”をつくる手助けをする大人も「地域の先生」ではないでしょうか。

そして、私達大人もいっしょに、子ども達と成長していくのです。



Q 「地域の先生」は資格、技術が必要なのですか？

A 必要ありません。資格や技術をいかして、それを子ども達に教えることのできる人は、もちろん立派な「地域の先生」ですが、なんの資格や技術を持たない人でも、自分の体験や行動を子どもの成長にいかすことができます。それも、また、すばらしい「地域の先生」です。



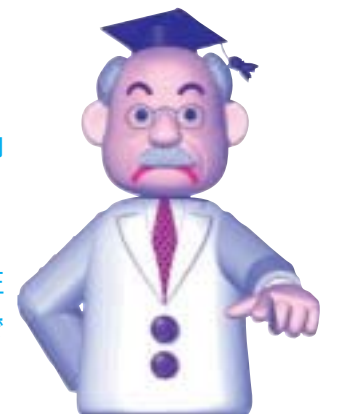
Q 「地域の先生」になるには、どうしたらいいのですか？

A 難しく考えず、出来る事から始めましょう。そこからあなたは、「地域の先生」です。

まずは、家庭に子どもがいる大人は、家庭の先生として自分の子どもと向き合しましょう。そして、地域の先生として子ども達と向き合しましょう。家庭に子どもがいない大人も近所の子どもとまずは向き合しましょう。

人によって、地域、立場、環境は違いますが、地域の大人が子ども達を正しく、優しく、そして時には厳しく育てていくという意識を持つ事が大切です。

また、自分の信念と責任を持ち、自分の行動を継続する事も大切です。



注1) 青年会議所(JC)とは

現在、全国に745の青年会議所があり、約54,000人の会員が、JC運動の三つの信条「奉仕・修練・友情」のもと、民主主義を守り、自由経済体制の確立による、よりよい社会づくりをめざして、ボランティアやまちづくりから、行政改革、地方分権などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、国境を越える交流や地球環境保全など世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

2.実践編 あなたも地域の先生になろう

私たち自身でできることから始めましょう。考えているよ

地域の先生

Step.1 すすんで挨拶をしましょう



Step.2 マナーはきちんと守りましょう



Step.3 近所の子も達と友達になりましょう



Step.4 地域の行事には参加しましょう



Step.5 地域サークルをはじめましょう



これであなたも地域の先生の仲間入りです!

りは行動です。さあ、あなたも地域の先生になりましょう!!

ホップ・ステップ・ジャンプ

Step.1では

「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」などのあいさつをきちんと行いましょう。

たった一言、声をかけるのは非常に勇気がいることです。あなたの一言が家族を変え、地域は変わっていくと信じ、自分から進んで実行してみましょう。

行ってきます!



Step.2では

たばこ、ごみの投げ捨て、順番の割り込みなどマナー違反をしたことがありますか?

「親の背を見て子どもは育つ」というように大人の行動を見て子ども達は成長していきます。大人がお手本という自覚をもち責任ある行動をしましょう。

赤は「止まれ」だよ!



Step.3では

花火、キャッチボール、バーベキューなど身近なことでも近所の子も達と知り合いになれるはずです。

近所の子も達とふれ合う機会をつくり、友達になりましょう。



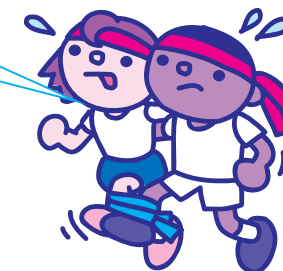
Step.4では

地区の盆踊り、運動会、など季節ごとに色々な行事があります。私達大人が地域の人達とコミュニケーションを深める必要があります。

地域のコミュニケーションの活性化が地域の先生づくり運動の核となります。

進んで地域の行事に参加してみましょう。

もう少しでゴールよ!

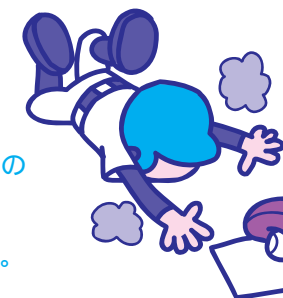


Step.5では

野球の好きなお父さんは、野球を教えるのもいいでしょう。

この地域の昔の話を知っているおじいちゃん、おばあちゃんは、子ども達に昔のお話を定期的に聞かせるのもいいでしょう。

そういう多くの大人達が寄り合って、いくつものサークル活動を始めましょう。この輪が大きく多くなり、地域の大人達の意識も変わります。



3.知識編 全国の学び舎の動き Q & A

今の地域教育、学校教育は昔に比べ大きく変わってきています。私達が学校や地域と連携し、地域の先生として活動する場合、私達は教育の動きを認識する必要があるのではないのでしょうか！

Q 全国の学校の教育はどのように変わってきているのですか？

A 多様化、高度化する社会の要請を受けて幼稚園、小学校、中学校、高等学校等、盲学校、養護学校等では、学習指導要領を指針として教育内容が変わってきています。

内容としては、「授業時数の縮減」や、これによる「教育内容の見直し」などがありますが、中でも一番大きな変化は「完全学校週5日制」ではないでしょうか。



Q 学習指導要領とは、何ですか？

A それは、「学校教育法」に基づく「学校教育法施行規則」によって、文部科学大臣が公示するものが**学習指導要領**です。これには各教科、道徳、特別活動などのカリキュラム編成の規準が定められています。

学習指導要領は幼稚園、小学校、中学校、高等学校等により内容が違います。

Q 学習指導要領は毎年変わるのですか？

A およそ10年おきに改訂されています。昭和22年に初めて刊行されて以来、社会環境の変化に伴い、

- 昭和26年（教科を4つの経験領域に分け教科書の関連を図る）
- 昭和33年（経験主義教育を是正し、統計的学習の重視と基礎学力の育成）
- 昭和43年（調和と統一のある教育課程の編成と実施）
- 昭和52年（児童の学校生活にゆとりと充実をもたせる）
- 平成元年（新しい学力観に立つ教育と個性重視の教育）
- 平成10年（ゆとりの中で一人ひとりの子ども達に「生きる力」を育成すること）と改訂されてきました。



Q 平成10年度の学習指導要領は実施しているのですか？

A 幼稚園は平成12年度から、小学校・中学校は平成14年度から、高等学校は平成15年度から実施です。今は、移行期間で趣旨徹底、教科書作成の期間です。

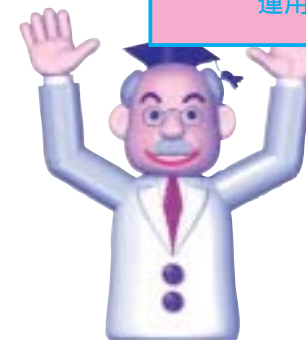
| 年 度 | 平成10年度 | 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 |
|----------------|--------------------|----------------------|---------|--------|---------|---------|
| 幼稚園 教育要領 | 教 育 要 領 告 示 | 趣 旨 徹 底 | 実 施 4 月 | → | | |
| 小学校 学習指導要領 | 学 習 指 導 要 領 告 示 | 趣 旨 徹 底 教 科 書 作 成 | | | 実 施 4 月 | → |
| 中学校 学習指導要領 | 学 習 指 導 要 領 告 示 | 趣 旨 徹 底 教 科 書 作 成 | | | 実 施 4 月 | → |
| 高等学校 学習指導要領 | 学 習 指 導 要 領 告 示 | 趣 旨 徹 底 教 科 書 作 成 | | | | 実 施 4 月 |

3.知識編 全国の学び舎の動き Q & A

Q 最近の小学校学習指導要領（平成10年告示）はどの様になったのですか？

A 平成14年度から実施される完全学校週5日制のもとで、ゆとりの中で一人ひとりの子ども達に「生きる力」を育成することを基本的なねらいとして、以下の点が改正されました。

- 1.豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。
A 小学校では人物・文化遺産中心の歴史学習を行う
- 2.自ら学び、自ら考える力を育成すること。
A 各教科、総合的な学習の時間で体験的・問題解決的な学習の充実
A 各教科で知的好奇心、探究心、論理的思考、表現力の育成を重視
A コンピューターの情報手段の活用を推進
- 3.ゆとりある教育の活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること。
A 年間授業時数は現行より週当たり2単位時間削減
A ゆとりの中で基礎的な内容を繰り返し学習し、確実な定着を図る
- 4.各学校が創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること。
A 総合的な学習の時間を創設し、各学校が創意工夫した教育活動を展開
A 各学校が創意工夫した時間編成が出来るよう、授業の1単位時間や授業時間の運用を弾力化



Q よく学校で耳にする「チャレンジ21」とは何ですか？

A 正式な呼び方は「チャレンジ21教育推進運動」です。
新潟県教育委員会が平成11年度より始めた事業です。変化の激しい21世紀を個性と創造力を豊かに、たくましく生きる子どもたちを育てていくため、各学校の行う創意工夫した教育活動を支援することを目的とします。初年度は約2億1,500万円の事業費で392校で実施されました。
各学校も非常に熱心に取り組んでいます。その中には、地域の大人達が地域の先生となって子ども達に色々なことを教えている活動もあります。

Q チャレンジ21の内容や運営方法は？

A 各学校では4つの分野からひとつの主要分野を選択し、必要に応じた分野の事業を組み合わせ創意工夫した事業を実施します。
また、教職員、保護者、地域住民から構成されるチャレンジ21推進委員会を設置し、この委員会の意見を踏まえたうえで学校の事業計画や各年度末の事業評価を行います。



4. 事例編 奴奈川地域での事例紹介

糸・西地域で様々な団体、個人、学校や地域の大人が、子ども達とかかわって色々な活動を行っています。そのほんの一例を紹介します。

事例 1 「ぐるっと大野」

主催：大野公民館
開催日：平成13年6月16日（土）
内容：大野の歴史をたずねて区内を歩く。
講師：地区「生涯学習推進委員会」委員長、副委員長、委員3名の合計5名
参加者：大野小学校の3・4・5年生が参加。参加自由。
主催者の声：子ども達は地元の歴史を学ぶ良い機会になったのではと思います。小学生だけではなく地域の大人や、大野の住民以外の方々にも参加して頂ければと思います。
問合せ先：大野公民館 Tel：52-0091



事例 2 「みんなで大きな絵を描こう！」

主催：市振小学校PTA
開催日：平成13年5月～10月の3回の創作活動
内容：市振漁港の防波堤に親と子どもが協力して壁画を作成し、活動を通して先生方と子ども達の親がコミュニケーションを深めて、地域活動を行っています。
講師：特になし
参加者：市振小学校児童・保護者
目的：児童と保護者がふるさとの市振漁港の防波堤に壁画を描く「協働」作業を通して、人と人のふれあいを深め、自分たちが住むふるさを見つめ直し、ふるさを愛する心を育むことを目的としています。
主催者の声：みんなで力を合わせれば、漁港の壁画の創作という大きな事業も成し遂げることができ、同時に喜びも分かち合えることを子どもも大人も体感でき、「協働」の大切さを学ぶことができました。



4. 事例編 奴奈川地域での事例紹介

事例 3 「地域子ども文化・スポーツクラブ」

主催：地域子ども文化・スポーツクラブ育成会
支援機関：糸魚川市教育委員会、糸魚川東小学校、糸魚川東小学校PTA、学校協議会、地区青年会、4地区公民館、地区老人会、糸魚川公民館
開催日：通年 平日夜 18：00～19：30
第2,4土曜 10：00～12：00
内容：文化クラブとスポーツクラブがあり、地域住民の大人達が先生となり、小学校体育館等を利用しクラブ活動を行います。
講師：地域住民（約30名）
参加者：糸魚川東小学校4年生以上を対象
目的：学校週5日制における地域での子ども達の活動を地域・保護者・学校が支援し、子ども達の健全育成を図る。地域にスポーツや文化的なクラブ活動を設置し、子ども達が楽しんでクラブ活動ができるように支援する。
主催者の声：子ども達と共通の趣味を通して接することが出来て非常に楽しい時間が過ごせます。子ども達が休みの日を利用して、講師の家へ訪問して指導を受けている事もあり、地域の密着連携がより深くなった感じがします。



事例 4 「少年少女OH！さかな教室」

主催：能生町漁業協同組合青年部
開催日：平成13年5月22日（火）
内容：底曳網や活き魚の掴み取り等の体験を通して、漁業についての理解を深めてもらう。
講師：能生町漁業協同組合青年部
参加者：能生町すべての小学校 5年生全員
目的：資源管理という観点に立って、人々の食生活に欠かす事のできない魚介類の現状について知ってもらい、安全な食料供給のためにも、海洋汚染は食生活を脅かす要因であることを理解してもらう。
主催者の声：この活動は、自然と触れ合うことが少なくなった子ども達に少しでも海に近づいてもらい、魚と触れ合ってもらうために始めました。今年は「ふるさとづくり全国大会」において企業の部で内閣官房長官賞を受賞いたしました。これからも、多くの皆さんの御協力を頂きながら、この活動を続けたいと思います。
問合せ先：能生町漁業協同組合 Tel：66-3131



4. 実例編

奴奈川地域での事例紹介

事例 5

「ふれあいスクール in 根知」

- 主催：社団法人 奴奈川青年会議所（根知小学校、根知小PTA合同事業）
- 開催日：平成13年7月20日（土）～11月11日（日）
- 内容：草刈から会食までの蕎麦の体験学習を行う。
- 講師：蕎麦作りの先生：横沢欽三氏（根知在住）
- 参加者：根知小学校の児童、保護者、会議所メンバー
- 目的：大人達も、根知小学校の子ども達と一しょに「地域の先生から自然の恩恵のすばらしさを学び、自然体験することにより、大人も子どもも「心」をより豊かに育むと共に、参加した大人達も「地域の先生」として子ども達に「心」を伝えることの大切さを体感する。
- 主催者の声：地域のPTAの皆様を始め、地区の方々の御協力でとても有意義な時間を子ども達と共有できました。この体験学習は今年で終わりますが、何か違った形で地域の子も達とかかわれる時間を作れればと思いました。
- 問合せ先：社団法人 奴奈川青年会議所 Tel：52-9343



事例 6

「糸魚川・西頸城FC」

- 主催：能生FC & 青海FC
- 開催日：能生 通年 第2,4土曜 9:00～11:30
その他の土曜 1:30～3:30
青海 通年 毎週日曜 9:00～12:00
- 内容：普段は「能生FC」と「青海FC」が別々に試合に出場していますが、全国大会を目指すために結成される少年サッカーチームです。
- 講師：伊藤章一郎、西依憲弘、愛場信和
- 参加者：糸西地域の小学校3年生から6年生
- 目的：子ども達にサッカーの楽しさ、面白さをプレーを通じてわかってもらうと同時に、チームプレイの大切さ、日々の練習が勝利に導くということを感じてもらう。この地域のサッカーのレベルアップと普及を目指す。
- 主催者の声：将来はジュニア（小学生）ジュニアユース、ユースチームと各年齢でサッカーができる体制が出来たらいいなと思いますが、今はサッカーの指導者が不足しているのが現状です。



4. 実例編

奴奈川地域での事例紹介

事例 7

「おじいちゃん・おばあちゃんから学ぼう」

- 主催：中能生小学校
- 開催日：平成12年10月22日（日）文化祭当日の午後
- 内容：地域の伝統文化、昔の遊びを地域の大人達から学ぶ
- 講師：保護者1名、児童の祖父母6名、地区民4名、学区外のお年寄り2名
- 参加者：中能生小全校児童 PTA80名程度、祖父母30名
- 目的：地域のおじいさん、おばあさんから、「生きていくための知恵」の一端を教えていただく活動を通して、触れ合いを深める場とする。
- 主催者の声：地域の皆様のご協力で8講座開設できました。学校だけでは指導できない豊富な内容の講座が生まれました。児童は自分の祖父母や父母と一緒に、自分の好きな講座に参加しました。そこで多くの知恵をおじいさん、おばあさんから学ぶことができました。目的であるふれ合いも深めることができました。
- 問合せ先：中能生小学校 Tel：66-2702



事例 8

「田海ヶ池のトンボを守ろう」

- 主催：田沢小学校
- 開催日：平成13年6月～
- 内容：トンボが住める池を造るということで、保護者や地域の方々も積極的に参加し、池を児童と作り水棲動植物を放流しました。
- 講師：「トンボを守る会」メンバー、保護者、田沢小の連携を進める会
- 参加者：田沢小学校5年生、保護者、地域の大人
- 目的：自分たちの住むまちのよさを知り、守ってゆくこととして水棲動植物の保護活動を基盤に、昨年、地域の財産としての田海ヶ池に着目し、特に池の環境保護及び水棲動植物の保護などを主眼に活動してきました。
- 主催者の声：保護者の協力が予想以上に得られ、子ども達だけではできない力仕事や、コンクリートを使う作業などの専門技術などを担当していただき、すばらしい池ができました。これを礎に総合学習の発展を図りたい。
- 問合せ先：田沢小学校 Tel：62-2215





今回のパネルディスカッションで、学校・PTA・地域活動を行っている方からパネリストとして参加して頂き、それぞれの立場でお話を聞き、子供達が成長する上でなぜ今の教育に地域の大人達が必要になってくるのか考えてみました。

実施日時：平成13年5月14日(月)

実施場所：青海町総合文化会館 きらら 1Fホール

主催：社団法人 奴奈川青年会議所

後援：糸魚川市教育委員会、能生町教育委員会、青海町教育委員会

コーディネーター

斉藤 勉氏(新潟大学 教育人間科学部 教授)



コーディネーター プロフィール：1946年生まれ。1969年新潟大学教育学部卒、1974年名古屋大学大学院教育学研究科博士課程を修了後1976年新潟大学講師、1978年新潟大学助教授、1992年より現職。社会的活動としては、新潟県私立学校審議委員、新潟県社会教育協会理事、新潟市教育委員会社会教育委員として御活躍されています。1997年全国社会教育委員連合会より表彰されました。

この地域では、特に糸魚川市の生涯学習推進のための生涯学習プログラム(社会教育において、学習者の学習要求の多様性に対応できるように工夫されたプログラム集)作成に際しましては、助言者としてご指導をいただきました。

パネリスト 和泉 裕一氏(市振小学校 前PTA会長)

朝比奈 トミ氏(南能生小学校 校長)

菅原 巧氏(糸魚川市根知在住 世界民族楽器演奏者)

広瀬 正樹氏(社団法人 奴奈川青年会議所 理事長)



Q. 各パネリストの方は、それぞれのお立場で地域ではどのような地域活動を行っていますか？

A. 和泉氏

市振小PTAと公民館の共催で、野外炊飯やキャンプファイヤーを行ったり、青海町漁港の協力で海上遊覧船の上から親不知を眺めました。さらに市振漁港の防波堤に親と子どもが協力して壁画を作成し、先生方と子ども達の親がコミュニケーションを深めて地域活動を行っています。

A. 菅原氏

根知小学校にて、世界の民族楽器を使用して、子ども達に音楽の楽しさをわかってもらうために総合学習の時間に教えており、文化祭にはオリジナル曲の発表会を行っています。

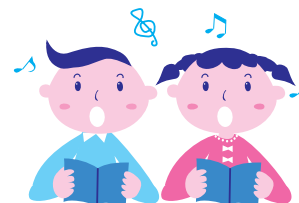
A. 朝比奈氏

サークルネットワーク(学校 家庭 地域)を繰り返す事によりコミュニケーションを深めています。事例として、総合的学習内容をパンフレットにして家庭に配布、華道の指導、バレーボール、コンピューターの指導、中国人の方にギョーザ作りを指導して頂いたり、フィンランドの方との交流会などの地域活動を行っています。

Q. 現状の地域の教育に対する課題、問題点、他に希望する事をお聞かせ下さい。

A. 菅原氏

今の子どもは...、ということ自体が子どもを差別していますし、いかがわしい雑誌、映像などの存在そのものが、毒であり、その毒を作っているのは大人であります。まず大人が変わらねばならないと思います。



A. 和泉氏

地域教育の実践にあたって、自分達が住む地域にどのような子ども達が住んでいるかが判るように心がけて行きたいと思います。課題として、子ども、大人、地域、それぞれが思いを語り合える場所を作ることだと思います。

A. 朝比奈氏

学校は垣根を低くして、大いに地域の方を受け入れ、地域に役立っていかなければならないと思います。グラウンドの草刈を通じて、地域のお年寄りの方ともコミュニケーションがとれるのは、素晴らしい事だと思います。また地域の方とふれあい、知恵をいただく事が最高の交わりだと思います。課題は、地域の方と交わる時、事故があったらどうしようとか、子ども達のプライバシーがどうなるかがあると思います。



A. 広瀬氏

地域の先生づくりは意識改革から始まります。それは他人事ではなく、自分自身の事であるという意識の目ざめが大事なのです。まず自分自身が変わらねばなりません。意識改革の輪が広まり、本当の意味での改革につながり、地域の先生が増えるのではないかと期待しています。

Q. 近頃の学校には、地域の大人が近づきたいような所があるのではないか。学校の施設を使わせないなど、学校と地域の連携が不足しているのではないのでしょうか？

A. 菅原氏

具体例として、バンドをやっている生徒達が、練習の場が無くて、学校の音楽室を借りようすると、「面倒くさい・高価な楽器があるから」などの理由で、使用させてもらえないことがあります。もっと、学校は「学びたい」という子どもの心を伸ばし、音楽をやりたいという生徒たちに音楽室を開放してやるべきだと思います。

A. 朝比奈氏

「学校を開く」という大きなテーマを掲げております。どうしたら学校を開いて地域や家庭と協力して、良い子どもを育てていけるか？を考え、まずは、「垣根を低くすること」を考え、歩き始めたばかりです。地域の皆様方には「どの様なかたちで学校に協力できるか？」をテーマに進めて頂いております。

5.情報編

パネルディスカッション

Q. 地域の方が学校へ多く入る事に、先生方は対応できるのでしょうか。校長先生をはじめとして、先生方の力量が試されるような気がします。出来ることなら大いに地域の人達を入れて頂きたいのですが？

A. 朝比奈氏 地域の方に入って頂くと、先生の不得意分野で苦手なところも、その人のおかげで補ってもらえる事ができ、先生も良い経験になる。先生と地域の専門の方二人でかかわることで、きめ細かな指導をする事が出来ると思います。



各パネリストのまとめ

A. 朝比奈氏 私たちが子ども達を育てていく上で大事なことは、学校だけでは子ども達は育たないという事です。家庭・地域の皆さんと協力し合わなければ、子どもは育ちません。学校は開いていく努力をしていますので、地域の皆さんの力を貸して頂きたい。そして、この学校の活力を地域でも活かして頂きたいと思います。

A. 菅原氏 失敗を重ねる事で、いずれ失敗をしなくなると思います。また、失敗する事は重要、ある意味では成功することよりも重要だと思えます。

A. 和泉氏 2年間PTA会長をやって、一番感じたことは“子ども達に大人自身が変えられた”事です。素直になって子ども達と接する事が一番大事だと気づきました。

A. 広瀬氏 子どもは親の鏡、親は子の鏡。子どもに学ぶ事、子どもは親に学ぶ事、地域や社会に学ぶ事。一つひとつを認め合って、本当の意味での意識改革をしていただいて、教育問題また、地域づくりにどんどん参加していただきたいと思えます。



コーディネータからのまとめ

先生の教え方がうまいというよりは、先生が熱意をもって取り組んでいる姿勢が子どもを育てる事であり、生身の人間から学ぶためには、出会いやかかわりの場を多く作る事が大切だと思います。実際は学ぶ機会を欠いている様です。

現状では、大人が地域を動かしていますが、その大人が子どもとかかわって、

子どもからエネルギーをもらう機会も多い様です。大人も知恵を出し合えば、地域の先生になれますし、学校・地域・家庭それぞれが協力し合うと、きめ細かな地域活動をする事が出来るのではないのでしょうか。

感想

今回のパネルディスカッションでは、青海・糸魚川・能生のパネリストの方々において頂き、様々な意見交換を公表して頂きました。我々地域住民と学校が協力し、お互いが助け合いそれぞれの知恵を出し合い、より良い地域になるよう心がけていこうと思えました。

5.情報編

地域の達人・先生、生涯学習の紹介



あなたは地域で地域の子ども達といっしょに、何か遊ぶことができたらと思ったことはありませんか？たとえば、天体観測をしてみたいのだが、塩田から塩を作りたいのだが、だけ道具もないし、知識もないからムリだと考えている方が多いのではないのでしょうか。

この地域で、様々な活動をされている方々が特技、知識を登録している人材バンク制度というものがあります。最初は登録されている方々といっしょに活動し、みようみまねで手伝ってみましょう。回を重ねるごとに知識もつき、知らず知らずのうちにあなたも「***の達人、先生」と子ども達から呼ばれるようになるのではないのでしょうか？

地域の達人、先生の紹介

糸魚川市スポーツ指導者バンク登録者名簿

種目：相撲、スキー、陸上競技、バスケット、バレー、野球、ラグビー、剣道、柔道、空手、テニス等35種類 221人

問い合わせ先：糸魚川市教育委員会 いきいき学習課 TEL：52-1511

糸魚川市人材バンク登録者名簿

種目：自然、社会、各種教育、職業技能、美術、工芸、音楽、舞踊、演劇、文学、語学、健康、趣味、生活等131種類 約100人

問い合わせ先：糸魚川市教育委員会 いきいき学習課 TEL：52-1511

おうみ達人バンク登録者名簿

種目：自然、社会、各種教育、職業技能、美術、工芸、音楽、舞踊、演劇、文学、語学、健康、趣味、生活等64種類 約50人

問い合わせ先：青海町教育委員会 生涯学習課 TEL：62-2260



生涯学習の紹介

わくわく楽習塾

目的：地域の指導者を積極的に活用することにより地域の向上力を図る

対象者：小学生、中学生 実施日時：随時

問い合わせ先：能生町教育委員会 生涯学習課 TEL：66-3111

糸魚川市生涯学習プログラム

目的：行政主導ではなく、地域住民の社会教育の援助・支援を行う目的で作られた、非常にわかりやすいバイブル的プログラム集

問い合わせ先：糸魚川市教育委員会 いきいき学習課 TEL：52-1511

5.情報編 「これからの地域・家庭・学校」に関するアンケート結果のまとめ

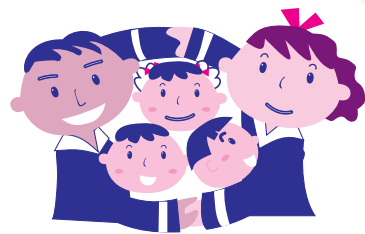
今年行ったアンケート調査の結果をまとめてみました。

実施日時：平成13年3月中旬

調査対象：糸魚川市・能生町・青海町の小学校長・PTA会長・公民館長・ボランティア団体の代表者合計159名

主催：社団法人 奴奈川青年会議所（地域の先生づくり推進委員会）

| | | | | |
|-----------------|--------|------|-----|-------|
| 有効回答：小学校 | 21校中 | 15校 | 回答率 | 71.4% |
| PTA | 21会中 | 14会 | 回答率 | 66.6% |
| 公民館 | 80館中 | 38館 | 回答率 | 47.5% |
| スポーツ団体、ボランティア団体 | 37団体中 | 11団体 | 回答率 | 29.7% |
| 合計 | 159団体中 | 78団体 | 回答率 | 45.2% |



ここではアンケートの集計結果から、回答者がこれからの地域による教育のあり方をどのように考えているかまとめてみました。

1 学社融合の必要性について

回答者のほぼ全員にあたる98%の方が学社融合は必要だと考えています。

その理由の主なものを下記のようにまとめることができました。

・教育環境

核家族化、少子化の進行により他者、地域とのかかわりが希薄になっている。また、教育は学校任せという風潮がある。

・総合的な学習の時間

心豊かで逞しい子どもを育てるには、学校だけの教育では限界があるので、総合的な学習の導入により、地域の豊富な教育資源を活用した、地域に根ざしたゆとりある教育と学校づくりが必要である。

・学校開放

地域の生涯学習の場として、学校施設を有効活用することは、地域の活性化や教育力の向上に役立つ。

2 週5日制開始後の休日の活動と問題点について

・環境整備

休日における地域における教育のための、組織・指導体制・環境・施設等の整備が不十分。

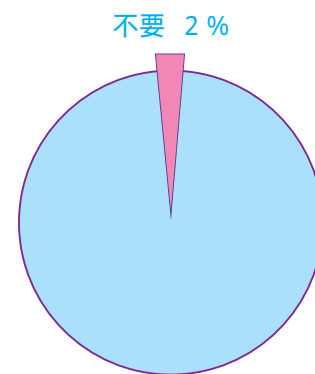
・活動

子ども達の主体性を育むために、子ども達自らも企画運営に参加する活動が良い。また、子ども達に地域の行事やボランティア活動、アウトドア教室等にも参加してほしい。しかし、活動が多すぎて、子ども達に負担がかかることは避けなければならない。自由に思いきり遊ぶことも大切。

・家庭

休日は親子でゆっくりとふれ合い、話し合い、考える時間をとることも重要である。しかし、親の方は完全週休2日制になっていないことが多く、親子のふれあう時間が増えるとは限らない。

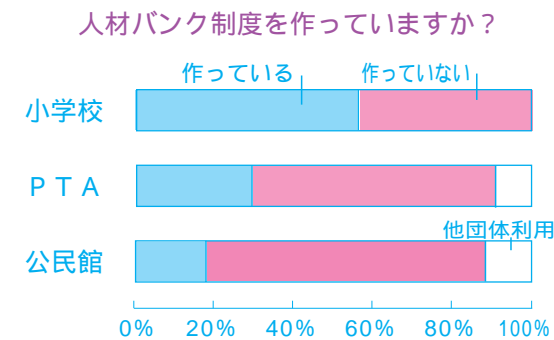
学社連携、融合は今の教育に必要ですか？



5.情報編 「これからの地域・家庭・学校」に関するアンケート結果のまとめ

3 人材バンク制度について

人材バンク制度の実施状況



「人材バンクのリストを作っている」と「作っていないが他団体のリストを使用している」という回答をあわせると、

小学校 53%

PTA 36%

公民館 27%

であった。また、スポーツ・ボランティア団体の30%が人材バンクに登録している。

人材バンク活用の効果

・子供

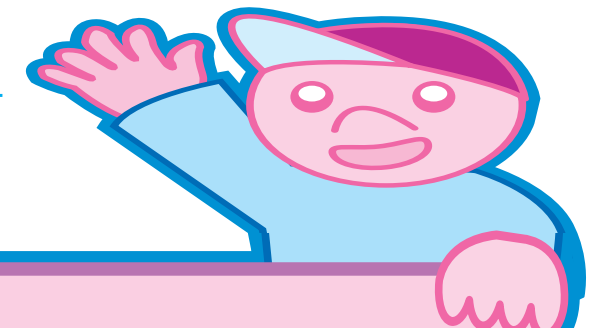
教師以外の地域の大人から教わるという新鮮さによって意欲的に学ぶ姿や、活動の多様化による視野の広がりが見られた。また、地域についての新しい発見や知識を深めることができ、地域に対する愛着が育ってきている。

・大人

教育・学校に対する関心が高まり、地域の交流と人間関係が深まった。また、教育活動への参加が教える喜びを感じ、励みになっている。

・全体

学校・子ども・地域の相互交流が深まり、ネットワークが広がった。



まとめ

今回実施したアンケート調査によって、糸魚川市・能生町・青海町の小学校では、専門知識や特技を持った地域の大人が、授業や体験学習、クラブ活動の講師として活躍しており、PTAや公民館、ボランティア団体も子どもたちと様々な活動を行っていることを知ることができました。また、ほとんどの回答者が学社融合の必要性を認めていることから、平成14年度から始まる学校の週5日制の下では、このような地域による教育がますます重要になり、比重も増すものと思われます。

しかし、地域の教育のための指導体制や施設等、環境整備の不備を指摘する声や、休日の活動が多くなり過ぎ、逆に子ども達の負担が増すのではと危惧する意見もあります。週5日制に対する学校と地域の連携については、関係機関を交えた十分な話し合いと環境整備が不可欠のようです。

子どもたちにゆとりを取り戻し、地域の中で心豊かに逞しく育ててほしいという願いが、今回のアンケート用紙の一枚一枚から、ひしひしと感じ取ることができました。同時に、地域が教育に果たす役割の重要性が確認できたことは、我々が行う地域の先生づくりにとって大きな意味のあるものでした。

アンケートの質問と回答は奴奈川青年会議所のホームページでご覧いただけます。

アドレス <http://www.fsinet.or.jp/nunagawa/>

5.情報編 インフォメーション(書籍、ホームページの紹介)

「地域の先生」に関する書籍



学校を基地にお父さんのまちづくり

出版社：太郎次郎社 編著：岸 裕司 価格：1,800円

一言コメント

「できる人が、できるときに、無理なく、楽しく！」がモットー。飼育小屋、ごろごろ図書室づくり、校庭一泊キャンプ、432人出演の秋津オペレッタ、まちをあげての秋津まつり、地域ノリノリ大運動会、大人たちの29種目のコミュニティルーム…。大人が楽しめば、学校が甦る！老いても住んで楽しいまちづくりへ。

地域の特色を生かす総合的学習実践プラン34例 /

出版社：明治図書出版 編著：竹川訓由 価格：2,200円（税別）

一言コメント

地域には、見たことがないもの、知らないものがたくさんある。地域の特色を生かす総合的学習を組み立てるには、地域の特色をつかむことが大前提となる。本書では、そのための六つのコツを示した。なくてはならないのは、「まちづくり」という視点である。



学校をつくる地域をつくる鹿沼発学社融合のススメ

出版社：草土文化 編著：栃木県鹿沼市教育委員会/編 価格：1,700円

一言コメント

全国的にも学社融合の先駆的实践である石川小学校や、市立板荷小学校の教職員、地域住民が開発した事例を中心に、市内各地区で取り組まれている最新の事例も加え、学社融合の実践集です。

子どもが輝く総合学習 地域と手をつなぐ学校

出版社：黎明書房 岡崎市立六ツ美北部小学校/著 価格：2,300円（税別）

一言コメント

本書は、「地域」と「生涯学習」に結びついた、他に類のない新しいタイプの「総合学習」の実践を紹介する教育関係者必読の書である。



地域と手を結ぶ総合的な学習

出版社：東洋館出版社 福井市宝永小学校研究会 価格：2,500円

一言コメント

本書は、「子どもたちに課題意識をもたせるためにどんな体験活動を仕組んでいくのか」「どのように授業を組み立て展開していくのか」「いつどのように子どもたちに学習をふりかえらせていくのか」等、随所に実践例を示しながら総合的な学習を実践していくために必要な知恵(見方・考え方)を詳しく述べています。これらのことは、総合的な学習を始めようとする多くの学校で大いに参考になるものです。

5.情報編 インフォメーション(書籍、ホームページの紹介)

「地域の先生」に関するホームページ

社団法人 日本青年会議所 地域の先生づくり運動推進委員会

<http://www.jaycee.or.jp/2001/cs/>

日本青年会議所が唱える地域の先生活動の報告のホームページです。

社団法人 日本青年会議所 北陸信越地区協議会 地域教育推進委員会

<http://www.jc-hokusinetu.org/>

地域教育推進委員会が行ったアンケート調査、地域教育アクションプランが掲載されています。

社団法人 奴奈川青年会議所 地域の先生づくり推進委員会

<http://www.fsinet.or.jp/nunagawa/pages/news.html>

奴奈川青年会議所の地域の先生づくり推進委員会が今年度行った、アンケート調査等の紹介を行っています。また、奴奈川青年会議所の今年度の諸活動がわかるホームページです。

子育て研究室わんぱく総研

<http://www.i-cube.co.jp/wanpaku/index.html>

このサイトは、教育情報誌「みらい」の記事をもとに再編集したものです。サイトの中の「楽しくなければ学校じゃない!」という項目の中には全国と学校・地域教育の実例が掲載されています。

文部科学省白書等データベース

<http://www.wp.next.go.jp/>

文部科学省が発表した昭和63年よりの教育白書が掲載されており、教育改革の動向、成果等がわかります。文部省年報、学制史等も掲載されています。

新潟県第8次総合教育計画

<http://www.pref.niigata.jp/sec40/ja/hati/index.htm>

新潟県教育委員会が策定した、平成13年から平成17年の5年間の教育施策が掲載されています。基本理念では、これからの学校と地域のネットワーク作りにも述べています。

ED-eyes 新潟きょういく通信

<http://www.ed-eyes.com/niigata/>

新潟県の教育ニュースがいち早くわかるホームページです。新潟県内の学校ニュース、シンポジウム、イベントの案内等の情報が得られます。

糸西リンク

<http://academic1.plala.or.jp/magatama/link.htm>

名立町、能生町、青海町、糸魚川市の小、中学校のホームページアドレスが掲載されています。各学校のユニークな総合学習を見ることが出来ます。

学校と地域の融合教育研究会

http://www02.u-page.so-net.ne.jp/ca2/jun50fty/yugo_top.htm

学社融合に関して草分け的な会です。フォーラムの案内や融研の掲示板等が掲載されています。



参考文献

| | | |
|---------------------------|---|-----------|
| 学校を基地にお父さんのまちづくり | 岸 裕司 | 太郎次郎社 |
| 学校をつくる地域をつくる | 栃木県鹿沼市教育委員会 | 草土文化 |
| 学社融合 | 伊藤 俊夫 | 全日本社会教育連合 |
| 21世紀の学校はこうなる | 寺脇 研 | 新潮社 |
| 市町村民会議の活性化に向けて | 青少年育成新潟県民会議 | |
| みんなでつくろう地域の先生 実践ワークブック | 社団法人 日本青年会議所 地域の先生づくり運動推進委員会 | |
| 豊かな感性育成プログラム | 社団法人 日本青年会議所 「終の住みか」創造グループ 豊かな感性育成委員会 | |
| 「心の教育」創造実践グループ 提言書 | 「心の教育」創造実践会議 地域教育実践委員会 家庭教育実践委員会 | |

参考ホームページ

社団法人 日本青年会議所 地域の先生づくり運動推進委員会
<http://www.jaycee.or.jp/2001/cs/>

社団法人 日本青年会議所 北陸信越地区協議会 地域教育推進委員会
<http://www.jc-hokusinetu.org/>

文部化学省白書等データベース
<http://www.next.go.jp/>

新潟県第8次総合教育計画
<http://www.pref.niigata.jp/sec40/ja/hati/index.htm>

あとがき

このガイドブックの発刊にあたり、糸魚川市・能生町・青海町の関係各位並びにボランティア団体など多くの皆様からのご支援、ご協力を頂きましたことに心よりお礼申し上げます。

社団法人 奴奈川青年会議所の「地域の先生づくり推進委員会」では、年初より「地域の先生づくり運動」を、この地域に広げようと活動してきました。

最初に取り組んだ事は、この地域の現状を知る為にアンケート調査を実施し、その結果多くの機関、団体で色々な取り組みを知ると同時に私達が認識していた以上に活動の広がりを実感致しました。

しかし、盛んに活動が行なわれている一方では、まだまだ無関心層がいる事も否定できず、この「地域の先生づくり運動」を広げていく必要性を強く感じました。

このガイドブックが、今は教育に関心のない方にも、子どもに地域の共育が必要であると気づいていただけのものとなる事を願うと共に、「地域の先生づくり運動」が広がり、そして根ざすことを願っております。

地域の先生づくり推進委員会
委員長 林 善彦

EDOゲームの紹介

「EDOゲーム」は、1998年度 社団法人 日本青年会議所・地球市民開発プログラム委員会が作成した日本JCオリジナルゲームです。

江戸時代を体験する事によって、現代社会の忘れ物「助け合って生きる」ことを理解しようと考案されたゲームです。ゲームの目標は、日本の伝統文化に触れ合うことにより、助け合って生きることの大切さを理解し、地球規模で生きる現代人が「助け合う心」を持った地球市民となることです。

ゲームの内容は、「現代社会がいかに便利ですばらしいか」を参加者と一緒に考えてみるところからスタートします。

進行役は、パソコンを使い現代社会の忘れ物を見つける手助けをします。その時「江戸時代」からメッセージが届きます。「江戸時代へ遊びにおいて」、参加者は江戸時代にタイムスリップします。

そこで、奉行・役人・火消し・医者・先生等の役者が決まっています。「江戸時代」で数々の事件や物語を「紙芝居」を使いながら行います。ご意見カードゲームをしながら、思いやる心の象徴「ゴールドツリー」をゲットしながらゲームは進行します。

ゲーム規模

時間：2時間程度（別途、事前準備に1時間程度必要です）

参加人数：50～100名程度

対象：小学校高学年（各チームに数名程度の低学年の参加可能です。1チーム：8名）

会場：バスケットコート1面程度の広さ（照明の明暗調整ができるとより良いです）

ご興味のある方は下記までお問い合わせください。

社団法人 奴奈川青年会議所 事務局 TEL (0255) 52-9343

アドレス <http://www.fsinet.or.jp/nunagawa/>